

いのちのおと



声のない叫びに、耳をすませてみませんか？

高校2年生の未波は、彼氏の大河との関係がうまくいなくなる。原因は…子供ができたこと。それをいつまでも彼に言えないでいること。
ある日未波は、遠い町へと足をのばす。海を見下ろせる静かな町。そこで同じく妊娠している25歳の女性、朔(さく)と出会う。
彼女は、お腹の中の子が生まれてくるのを心から待ち望んでいた…。

一方、とある少年ウミは、みいという少女と出会う。彼女が繰り出す「ママ」の話になぜか心痛めるウミ。
「僕のママは、いつも泣いているから…。」

「命を大切にする」とはどういうことか。「愛する」とはどういうことか。
新しい命の誕生を待ち望むアナタへ、悔しくも小さな命の芽に別れを告げたアナタへ、そして、今を精一杯生きるアナタへ。

これは、お腹の中に新しい命を抱えた少女の決別と出会いの物語。
声のない叫びに、耳をすませてみませんか？「いのちのおと」が、きっとアナタにも聞こえてくるはず…。

トリコ組監督プロフィール



鳥澤 亜也乃

1991年 東京都生まれ。
2010年7期生として東京フィルムセンター映画・俳優専門学校に入学。
映画監督専攻として活躍。短編映画「5人4色」、
「WISTERIA」「11月のトロイメライ」、舞台「little by little ～色ノナイ空～」を制作。人の人生の一瞬という時を独特の世界観で捉えている作風は観る人を考えさせ感動を与えている。

トリコ組過去作品

「5人4色」

写真が趣味の春一と、絵を描くことが好きな春一の妹、春香。理想のカップルに見える夏野と美冬、春香の絵に心惹かれる千秋。5人が描く4色の人生が、今、混ざり合っゆく。ここは、観覧車のある町。ゴールなんてなく回り続けているように見える観覧車も、決して止まらないわけじゃない。現在のトリコ組を形作るきっかけとなった、渾身の処女作。



「little by little ～色ノナイ空～」

実仁、青、香は幼なじみ。青の目が見えないことなんて、気にならないくらい仲が良かった。高校卒業後、東京へ進学した実仁へ宛て、青と香は、毎月ビデオレターを送る。しかし、そのビデオレターには、もう一つ大きな役割があった。8年の時を越え、今、一つの「生きた証」が刻まれる。映像と舞台の融合を目指した、トリコ組初の舞台作品。



「WISTERIA」

一年前、俺はこの世界はゴミでできていると思っていた。自分も、そんな世界を形作るゴミの一部でしかない。だけど、君が俺を必要としてくれたあの日から、世界は俺と共に廻り出したんだ。バンド「WISTERIA」の結成からデビューまでを描く、トリコ組映画第二弾。



「11月のトロイメライ」

高校卒業を前に、バイオリンを辞める決断をした陽芽。ある日通学路のいちよう並木を歩いていると、どこからか下手くそなバイオリンの音が。「はい、忘れ物」。陽芽の前に現れた自称「木のお医者さん」は、陽芽にもう一度バイオリンを弾くことを頼む。一本のいちようの木が元気がないから、音楽療法を試してみたい、と。夢を追う、全ての人たちに贈る、秋のまどろみのような一作。



キャスト紹介

- Q1 この作品についてどうお考えですか？
 Q2 どのようなことを考えて演技しましたか？
 Q3 この作品をみていただいた方に
 どのようなことを伝えたいですか？
 Q4 この作品のテーマである「命の大切さ」について
 どう考えていますか？
 Q5 母への想いを教えてください



中村 亮友/ウミ役

トリコ組「5人4色」、「WISTERIA」、舞台「little by little～色ノナイ空～」。トリコ組は、今回で4作品目の出演となる。自主制作映画「I did it my way」、「Actor's Life」等、学内でも持ち前の演技力と透明感を高く評価され、さまざまな作品に出演。日本テレビ「人生が変わる深イイ話～3行ラブレター～」他。

1. 決して他人事じゃない身近な問題であり、命の尊さを感じます。赤ちゃんにも私たちと同じ様に意思があって必死に生きて、愛されたいと願っているのだと思います。
2. 考えることはしないように心掛けました。今その場にちゃんと両足で立って生まれた感情を表現することを大切にしました。
3. みんな一人では生きていけない。みんな誰かに愛されたいと願ってる。本当に小さな小さな命だ生まれて間もない赤ちゃんも変わりなく生きてる。どんな命も大切なんだと、改めて伝えられたらいいです。
4. 世界にまったく同じ人はどこにもなくて、人にはそれぞれ、その人にしかない輝きを持っている。私もあなたもたった1人しかいないかけがえのない存在なんだと、学びの場を通してそう感じています。その魅力も命あってこそ。「大切に今を生きたい」とそう思います。
5. 私のとても大切な存在です。私は幼い頃からたくさん愛されて育ちました。お母さんの手料理、笑顔、家族の為に頑張る姿、物を大切にしている心、ちょっとぬけているところが大好きなんです。お母さんの姿を見て育ち今の私がいます。感謝しきれないほど感謝しています。



河嶋 遥伽 / 望月 未波 役

トリコ組「5人4色」、「WISTERIA」、舞台「little by little～色ノナイ空～」。トリコ組は、今回で4作品目の出演となる。また、「レ・ミゼラブル」、「バナナ学園純情乙女組 秋の大運動会」等、数々の舞台に出演するなど、多方面にて活動中。

1. 人間の生まれて初めて、を感じていただきたいです。今回、ウミにとっては全てが初体験です。そう感じながら観ていただけると嬉しいです。
2. 逆に考えない、ということを意識していました。ウミにとっては1秒1秒動くものが全てが初体験なので、理性的にならず本能で動くことと人物や風景などに、とにかく興味を持つことに集中していました。
3. この作品を観た後にご家族やお友達、周りの人に少しでも優しく温かい気持ちで接していただけたら嬉しいです。誰かに支えられ生きている自分、誰かを支えて生きている自分、いつもの帰り道で違う景色を見つけていただけたらと思います。
4. 命を扱う作品は本当に難しいと思います。何が難しいのかって、なんで難しいのか明確に分かっていない自分がいたりします。そんな状態で撮影していたのか！と怒られるかもしれませんが…ウミは理解していたかもしれませんが、今の僕には分かりません。なのでいつか自分なりの答えを見つられたらと思います。
5. 僕から母への想いを考えると…基本は面倒くさいなとか、うざいと思うこともあります(笑) なんだかんだ頼ってしまいますし、僕の身の回りで起きる出来事を僕以上に喜んでくれたり真剣に考えていてくれたりするので、母だけでなく父も姉も、鬱陶しいと感じるときもありますが大好きですね。



北見 翔 / 飯島大河 役

トリコ組「WISTERIA」にて、バンド活動を通し変わっていく主人公を見事に演じる。また、学内での舞台公演「闇の森に棲む鬼」、「阿修羅城の瞳」にて主演を務めるなど、徐々に頭角を現している。

1. 全員が色々な事を受け取ったり、感じたりできる作品だと思います。
2. この台本を読んで、自分の役は何を求められているのか？から考えて役作りをしていきました。
3. もう一度、命の大切さなどを考えてもらえたらと思います。
4. 私が思う命の大切さは、命は一つしかない。それも、自分の糧からもらう大切な命。だけど今の世の中、命を大切にしない人が多すぎる。命は僕だけのものじゃない。それをもう1度感じてもらいたい。一日一日を大切に生きよう。
5. いつも自分のことより、まず僕たちのことを優先してくれる母。自分のことを犠牲にしてまで僕たちを支えてくれる。今はこんな自分だから、支えてもらうことしか出来ない。けれど、いつか必ず恩返しがしたいと思っている。たくさんもらった愛を、今度は自分が返す番だ。



久保 晶子 / 潮谷 朔 役

自主制作映画「黒い女」、「IN JAPAN」
また、「芸劇eyes 20年安泰 バナナ学園純情乙女組」、「バナナ学園純情乙女組 秋の大運動会(東京F/Tのみ参加)」等、数々の舞台作品にも積極的に出演。

1. いのちがテーマの映画って沢山あると思うんですけど、新しい命から始まるものって少ないと思うのですごく貴重な作品だなと思います。学生だから作れるものなんじゃないかなって。
2. 撮影中はいろんなものに興味をもちたりして小さい子の心に近づけてました。私は普通にしてみても子どもっぽいで(笑)テンションのあがった自分を重ねればすごくやりやすかったですね。
3. この作品を観終わった時にいろんな想いにかられると思うんですよね。それは1人1人違って、年代によっても性別によっても絶対違う。もしそれが良いことじゃなくても「命」に触れていただけたらと思います。
4. 命は大切なんで何百回も言われるけど、私が実感したのはやっぱり目の前にしたときでした。命の大切さって一番伝えたいのに一番伝えづらいものだと思います。言葉よりも感じる事が大切だから、「いのちのおと」をみて命に触れてもらいたいです。
5. 私の母は、毎日笑っていて、自然が好きで、ケーキ作りが得意で、クシャミが一人倍大きくて、リアクションも大きく、最近はお腹も大きく(笑)なってきました。でも、そんなお母さんが私は大好きです。ぶつかることもあるけど将来、私は笑顔を保ちたい、キラキラ優しいお母さんみたいなお母さんになりたいです。

1. いのち、という題材をととても丁寧に扱っている作品だと思います。一人の人間からみた命の形をそのまま表現していると思います。それが交差し、影響して変わっていく。ありのままの形が好きです。
2. 自分の中に命が宿っているということ。全ての起源となるのが、今自分が自分とは違う命を抱えているということだと思ってお芝居をしていました。
3. 自分にとって命とはどういうものか。今回は赤ちゃんという形で表現していますが、自分もそうやって生まれてきた命であること、そして周りの人たちも同じように尊い存在であることを少しでも思い出していただけなら幸いです。
4. 生きて行く上でその存在や尊さに改めて気付かされる機会は決して多くないものだと思います。認識をすることで、もっと人や自分を大切に思えるものだと思うので、是非、頭の片隅に置いておきたい事柄だと私は思います。
5. どんな形であれ、いつも自分を心配して気にかけてくれる人です。その存在だけで私は沢山の事に自由でいられるので、同じ様に母にも自由であってほしい、そのために何が出来かなって考えたりします。多分、これが私の母に対する愛だったりするんだと思います。



水谷 百里 / 満月 役

トリコ組「5人4色」、「WISTERIA」にて、メインキャストを務める。自主制作映画「スマイル」、「rageblue」等、主に映像方面にて活動中。



監督専攻
鳥澤 亜也乃

Q この作品を作るにあたってどのようなところをこだわりましたか？

妊娠や中絶という、半端な気持ちで扱ってはいけない内容を描いていたので、だからこそ、作品があまりどんよりしすぎないように気をつけました。ファンタジックな要素を加えたり、優しい雰囲気のある画にしようと模索したり。あとは、やっぱり台詞回し。脚本も自分で書いているので、各キャラクターの台詞一つ一つにこだわっています。現実味がないような、実際自分が会話したら絶対使わないような言葉をあえてチョイスして、そこで世界観を作り出すことで、現実と映画を区別できたらな、というのがいつも根底にある目標なんです。というのも、映画を現実より綺麗に描くことが、現実生きる人々の悩みだとか、疲れた心だとか、そういったものを軽くしてくれるはずだと信じているから。だから今回も、リアルをリアルに描かないように気をつけました。映画の中で生きる彼らの悩みが、決して現実で壁にぶつかっている人たちの悩みより、大きくならないといけないから。

Q 一番見てほしい場面はどこですか？

全部です!! とか言いたいところなんです(笑)、やっぱりあれです。ウミが海岸で未波に語りかけるシーン。ここは、未波が母として重大な決断を下す、大切な場面でもあります。例えば常日頃から、誰でもウミのように必死で思いを叫びながら過ごしていると思うんです。それが誰の元にも届かないと分かっている、やっぱり叫ばずにいられない。このシーンは、そんな叫びが巡り巡って誰かの一步になることを、表現したかったシーンなんです。もしかしら自分が、誰かを動かすきっかけになれるかも。そう考えたら頑張ることも苦じゃなくなるんじゃないかな、と思って作りました。とにかく未波とウミ、2人の思いが繋がった瞬間が感動的なんです。るかも亮友も本当にいい表情をしてくれています。是非一瞬の表情の変化も見逃さないで下さい!!

Q 撮影中楽しかったことありましたか？

いっぱいあるけど、中でも笑えたのは、あれかな。ほんとに笑っちゃいけないんですけど、今だから楽しかったことにしちゃうんですけど、海での亮友のローリングサンダー(笑)。高波にさらわれて見えなくなった亮友に、一瞬誰しもが本気で死んでしまったことでしょう。メイキングに入ってるので、是非機会があったら見てあげてほしいです。文字通り命がけて臨んでいたんで(笑)。

Q 撮影中辛かったことは？

うーん。その時その時は、なんかもう全てが辛いんですけど(笑)。やっぱり何もかも思い通りにはいかないので。でも、今となっては辛かったことなんて思い出せないですね。終わった瞬間、辛かったことはほんとに全部忘れちゃう。だからこそまた撮ろうと思えるのかもしれないです(笑)。

Q 卒業制作ということでプレッシャーなどありましたか？

それはありましたよー!!(笑)。
まだ2年生という立場もありましたし、本当は自信なんてこれっぽっちもなかったんです。なのに今までの自主制作とは全然規模が違って!! 作品に関わってくれた方的人数も、費やした時間も、お金も、全てが圧倒的に多い!!
でも絶対に失敗できないというプレッシャーがあったからこそ、集中もできたし、結果、作品を良くすることに繋がれたので、有難かったかもしれません。

Q 主演の河嶋さんの印象は？

はじめと一緒に映画を作った時とは、全然違う印象を受けました。『5人4色』から、『WISTERIA』、『little by little』とずーっと一緒にやってきてくれるんですけど、今回また一緒に本読みとか話し合いとかをしてみて、なんだろう、なんか、優しくなったなあ、と(笑)。今まで優しくなかったみたいに関心するかもしれないんですけど、そうじゃなくて、本当にお腹の中にもう一つ命を抱えているみたいと言うか。芯の強さやまっすぐさは、運伽の持ち味だと思っているのですが、それよりももっと深いところに、真剣に妊娠というワードと向き合う姿が見えた気がします。私の拙い表現から、残さず全てを柔軟に吸収してくれて、さらに、より繊細なところを汲み取ってくれるんです。前回もそうでしたが、彼女の高いモチベーションに置いてかれないよう先回りするのが精一杯で(笑)。本当に、運伽で良かったと心から思います。

Q スタッフへ一言お願いします

ありがとうございます。これに尽きます、本当。なにか一つ問題と向き合う度に折れてしまいそうな私が、ここまでやってこれているのは、皆がいるからです。色々な方面から全力で作品とぶつかってくれて、時には意見もぶつかって(笑)。でも誰一人言わないんですよ、もうやめよう、なんて。プロになってしまえば当たり前かもしれないけれど、これって本当にすごいことだと思うんです。皆



好き。誰一人欠けてないトリコ組が好き。本当にいつもありがとう。これからもよろしくお願いします。またきっと何かと頼ります(笑)。

Q この作品を見られる観客の方々へ

こんなところまで目を通していただいていると思うと、感激と同時に恥ずかしいです(笑)。こんなことを言うのもあれですが、「いのちのおと」は、男女ともに、どんな年代の方でも楽しめる作品、というわけではありません。観終わった後、全ての方にすがすがしく帰っていただくことができないのは、本来なら間違いなのかもしれませんが、今は、その間違いごとこの作品を愛していただきたいと思っています。末波という少女が迷い、決断し、踏み出したその重い一歩は、確かに一つの答えです。ひとりひとりが、いつか自分自身の答えを下す時に、少しでもこの作品が手助けになったらいい、そんな思いで作りました。まだまだ拙い作品ではありますが、どうぞ最後までご鑑賞下さい。そして、命という尊い存在に、もう一度だけ目を向けてみて下さい。

Q この作品のテーマである「命の大切さ」についてどう考えていますか？

私は、命の大切さなんて、日頃からひしひしと感じている必要はないものだと思います。むしろそんなこと不可能だと。けれど、身近な方が亡くなった、新しい命の誕生の瞬間を目にした、そんな時にふとリアルになるものだと思います。軽々しく口にはできないし、理由なんてやっぱりよくわからないけど、大切なんだと思います、命って。

Q 母への想いを教えてください

こんなことを言うと大げさすぎるかもしれませんが、やっぱり私に命をくれた人。母がいなければ私は今ここにいないんだと思うと、急に母が愛おしくなります(笑)。いつも文句ばかり言って心配ばかりかけて、でもそれが当たり前になっていて。けれどそれこそが一番身近な愛なのかなとも思います。改めてありがとうなんて恥ずかしくて伝えられませんが、いつか母への愛を感謝という形で伝えたいと思います。そして、この愛を、いつか我が子へ伝えられたらいいなと思います。母が私にそうしてくれたように、自分も精一杯新しい家族を築いていけたら、それ以上の恩返しはないと思います。





プロデューサー

映画プロデューサー専攻
新野 未奈

Q この作品を作るにあたりプロデューサーとしてどのようなことを気を付けましたか？

何に言われるとちょっと困ってしまうのですが…期間内で切り切る為に天候やロケ地先の都合、何か問題が発生して撮影が中断してしまわないかなど…当たり前のことですが、やっぱりそういった部分に一番気を使いました。

Q 一番見てほしいところはどこですか？

作品のことはきっと、皆がコメントしていると思うので、敢えて私はエンドロールで！ 森岡麗衣ちゃんが作ってくれたのですが、あの可愛いイラスト、実は本編のその後になっているんです。是非、そこにも注目して見て頂きたいです。

Q 撮影中楽しかったことはなんですか？

移動中の車内！撮影後にも関わらず、ひたすら喋り倒して皆で盛り上がっていました！

Q 撮影中つまらなかったことはなんですか？

ねむかったこと、暑かったこと！撮影中では無いですが、資金集めも結果大変でした(笑)

Q 卒業制作ということでプレッシャーなどありましたか？

ありましたね！まだ、2年生だからと言う気持ちも少なからずありましたけど、逆にここで失敗したら来年はもうない訳ですし…ここで終わりにさせないようにというのはありました。

Q 監督についてどのような印象をお持ちですか？

これ、難しいですか？(笑) 自分の意志はちゃんとすぎる程持ってるし、監督やるならやっぱりこれくらいこだわらない！って思います。うん、凄く監督向きの気がします！トリコに振り回されている感じがきっとみんな大好きなんだろうなあって！そんな私も、凄く頼りにしていたりします！

Q この作品を見てくれる方に一言

普段命の重さについて考える機会などあまりないと思いますが、この作品がきっかけで、改めて、命の大切さについて考える機会になってくれたらいいなと思います。

Q この作品のテーマである「命の大切さ」についてどう考えていますか？

凄く難しいテーマで、私自身も何がどう大切なのかというのを理解できていないし、考えれば、考える程わからなくなってしまう部分もあります。ただ、必要ではない命はないということ、自分の命大切に出来なければ、相手の命の大切さまで考えられないのではないのかなと私は思いました。

Q 母への想いを教えてください

先日、成人式を迎え、改めてここまで育ててくれたことに感謝する1日となりました。時には、反抗して母の心を痛めた日もあったし、迷惑ばかりかけてきた私ですが、今では母の苦労がわかるようになり、本当にありがたいのひとことに尽きます。私を産んでくれた母をこれからはもっと大事にしていきたいと思いました。

質問

Q この作品のテーマである「命の大切さ」や「母」について教えてください



撮影

カメラ・照明専攻
牧志 結美

A. 世の中には助けたくても助からない命がある。それは気持ちの問題だったりその人の生きてる環境だったり。でも周りの助けで赤の他人でも助かる命だってある。それをこの作品をやって改めて思いました。人の命を救えるのは結局人なんだと。生きよう、生きたい、助けたい。そんな気持ちを与えてくれる命。命は命で繋いでいくものだとは思っています。

私の母がママを聞いてくれてここまで育ててくれた母には感謝という言葉でいっぱいです。私が東京に行きたいって言った時に家族に反対されました。お金もかかるし東京という沖縄と比べて厳しく何があるか分からない環境で暮らしていくとなると家族からすると不安と心配しなかったと思います。そんな中、東京に行く事を許してくれた時、母が「夢が追いかける事が羨ましい。私は夢がなかったから」と言っていました。その時に私は母の夢になろうと思いました。私の夢を叶える事が母に対する愛であり私にできる恩返しだと思っています。



照明

カメラ・照明専攻
庄山 徹

A. 人間はいずれ命を失ってしまう。だからこそ一瞬一瞬を楽しみ生きた証を残したいと思う。自分の周りでは有り難いことに亡くなった人がおらず、小さい頃の時はあるのですが、あまり記憶がありません。今だったら間違いなく身近な人が亡くなったら泣き崩れると思う。想像しただけでもそういった思いはしたくないし、させたくないで命は大切にしたいし、みんなが大切にしたいです。

今まで生きてきて母には心配と迷惑ばかりかけてきたと思う。高校から実家を離れ一人暮らしをさせてもらって、お金もかかり、いつも支えてもらってばかりでした。自分がやりたかったことを気が済むまでやらせてもらったので感謝しています。恩返しのために結果を残して喜ばせてあげたかったけど結局ダメでした。本当に情けないです。でも今年で成人を迎え、新たにスタートを切って、これからは自分が支えていき親孝行していきたいです。自分は母を尊敬しています。



録音

音響専攻
高柴 佳奈

A. 昨年は、大地震によって沢山の人が命を落とした年だったと思います。私も身近にその災害で命を落とした人がいるので、かなり命の大切さについて考えさせられました。生きたくても生きられない命もあるなか、こうして生きていられる私達は、そういった人達の方で命を大切にしていかなければならないと思います。

中学の頃、授業で出産の映像を見た事がありました。その時の子供を産む母親の強さを思いしらされました。出産ばかりではなく、子育てをしていくことも、とても大変な事です。自分が今こうして健康で、毎日を送れているのも、母のお陰です。感謝の気持ちで一杯です。母は一番の理解者であり、憧れであり、大好きな存在です。



美術

映画・TV・舞台美術専攻
谷元 沙紀

A. 今普通に生活して当たり前に行っていること。それはすべて命があるから生きているからできること。生きたくても生きられない人はたくさんいる。生まれてこない赤ちゃんもたくさんいる。年々自殺、中絶、殺人をする人が増えているが、一刻も早くなくすべき。命はそんなに軽いものではない。

何においても一番に考えようこと。ただ元気な姿を見せ、成長していく上で共に喜び笑い合えること。自分が頑張ってきたことで結果を残すこと。母の喜ぶことをして思いやる事が母への愛。産んでくれて、育ててくれてありがたうと思うこと。



衣裳

メイク・特殊メイク専攻
原田 真以子

A. 命は何ものにも代えられないとても大切なものだと考えています。3月11日の震災で多くの人の命がなくなりそれをテレビなどで見ていてよりいっそう思いました。自分はずっとそういう目に合わないだろうと命を粗末に扱う人とかいるけど、そういう人達にもっと考えてほしいテーマだと思います。

ここまで育ててくれて本当に感謝しています。産んでくれてありがとう。今まで育ててくれてありがとう。これからは迷惑かけた分、恩返しをいっぱいしていきたいです。



メイク

メイク・特殊メイク専攻
金子 智世

A. 私達が生きていく中で必ず考える事だと思います。命は尊くはかないけれどとても個性的でキラキラした力強いものだと思います。生きている事が当たり前過ぎて中々大切さに気づかないけど、一人ひとり大事にして欲しいです。

私を産んでくれた事に感謝したいです。決していい子ではなかった私に沢山の愛情で育ててくれてありがとう。私も将来子供ができた母の様に沢山の愛で育ててあげたいと思います。



助監督

映画監督専攻
本多 遼大

A. いのちなんてあって当たり前だと思って今まで生活していたが、地震や津波などで多くの人が亡くなったのをニュースなどで見て、いのちのありがたみを実感しました。生きたくても生きられない人が居るのだから自分のいのちを大切にしていきたいと思いました。

僕は運生まれで、帝王切開で生まれました。今まで母には罵声を浴びせたり、迷惑をかけたりしていた。だけど先日成人になり、いままでの人生を振り返ってみると腹を切ってまで自分を育ててくれた母親をどれだけ感謝していたんだと考えたら、とても申し訳ないと思いました。これからはいままで支えられた分支えてやろうと思いました。



編集

映像編集専攻
中林 春菜

A. この作品での命は、まだお腹の中にいて、日本の法律では罪に問われずにおろしてしまえて、生きるか死ぬかとても微妙な立場にいます。映画ではその命が観客の目に見えて分かる訳ですが、わたしはその姿を見たらとても粗末になんて出来ないと思います。目に直接見えないという点では世界で起っている戦争や犯罪に繋がっていると思います。この作品を見た人達もなんとなくそんな感じに思ってもらいたいです。



いのちのおとプロダクションノート

企画スタート(プリプロダクション)

脚本を元に、ロケ現場の決定や撮影日の取決め、映画制作する上で欠かせない、一番大切なのがプリプロダクション。この段階で撮影時の方向性や段取りが決まってしまうため、非常に重要な部分を占める。映画の出来が90%プリプロダクションで決まってしまうとも言われています。



カメラテスト、衣裳・メイク合わせ、美術作業

プリプロダクションが終了し、そこでの打ち合わせを元に各セクションが撮影に向けて準備を行っていく。撮影・照明部はロケ現場に視察へ、衣裳部・メイクは直接伊勢に依頼に合ったものを提供していく。美術部は撮影日に向けて、セットデザインや建て込み、小道具の制作や持ち道具の準備を行います。



キャストスタッフ全員集合(オールスタッフ)

撮影日が近付き、各セクションの準備が進む中、全てのキャストスタッフが初めて顔合わせをするのがオールスタッフ。ここでは、チームの問題点や進捗状況を全て洗い出し、撮影までに問題を発生させないため確認、打ち合わせが行われます。また、キャストも参加することでチームのコミュニケーションも高めることが出来ます。



撮影/クランクイン(プロダクション前半)

いままでの準備期間の全てを出し切るための撮影がついにスタート。プリプロダクションで制作した一日のスケジュール表(巻頭表)を元に、限られた時間の中で撮影が進みます。各シーン、カットでの問題点を監督を中心に各セクションのリーダー

クランクイン



撮影(プロダクション後半)

が相談しながら、提案を行いスムーズに撮影を進めて、納得のいく形に仕上げていきます。

4日目



5日目



6日目



8日目



9日目



10日目



撮影/クランクアップ(撮影最終日)

短くても2週間ほど、長い作品だと約3ヶ月間に及ぶ撮影期間の最終日となります。監督や俳優など各部署のスタッフが各々のプロとしての技術を出し合いクランクアップとなります。新しい技術を得ながら、最終日を迎え、次の新しい現場へ立ち立っていきます。とりわけ、プロの現場は一度しか同じチームで撮影ができません。だからこそ、作品毎に素晴らしいものが出来上がっていきます。

クランクアップ



0号試写から完成披露試写会を終えて・・・

元ギャガ・コミュニケーションズ代表取締役社長

〔教育顧問〕丸茂 日穂先生 × 鳥澤監督 特別対談！



Ayano Torisawa

鳥澤：まず、3回目見ていただいた感想お聞かせいただいてよろしいですか？

丸茂：最初のラッシュ、0号を見て非常に全体的には見やすい映画に仕上がったと思います。この「いのちのおと」という一つのテーマについて、いろいろな人の意見もあったと思いますが、監督の伝えたいことがわかりやすく描けた作品になった気がしました。

0号試写を終えて、監督として気になって変えたところがありますか？

鳥澤：音と、寄りの画を多くしてみたりしました。あとは、わかりやすく物語を追って行けるようにシーンの順番を変えてみたり、台詞を付け加えたりとしましたが、しっくりこなくて。それほど変更はせずに、0号の時の状態に結局は落ち着きました。

丸茂：ストーリーはある程度わかっていたので、今回は音楽やカットや色など、前回見れなかった部分を注力して見てみましたが、音楽が本

当によくできていると思います。シーンに合った、オリジナリティにあふれるいい曲を使ったと思う。最初見たときに内容がわからなく戸惑うシーンがあったけど、今回は映画が一般ウケする加工が施されている気がします。全体のバランスが良くて、主役の彼女の顔つきがだんだん変わっていくところも良く表現できたと思います。ただ、一つ気になった部分で、その後の子どもたちの将来の部分も見据えて作品を作ったかどうかということです。

鳥澤：将来の部分は特に考えていませんでした。今回は産むか産まないかの決断は最終的にはストーリーの落ちにはなっているのですが、そこを重要視したわけではなく、そこに行きつくまでの彼女の気持ちの変化や考えに重きを置いています。

丸茂：なるほど。それがとても良く出ているので、いいと思います。映画は無から有を作り出すので、映像としてその部分は非常に伝わって



います。何が言いたかったか監督としてどういうことが伝えたかったかが明確になっているってことです。この映画は最初、みんな迷うんです。ただ、迷って途中からだんだん、お客様が見いだすのではなく、映画が導いてくれる演出になってきていますね。今回は脚本に携わっていないのですが、プリプロをもっとよくできたのであれば、さらに良くなると感じました。

丸茂：話は変わりますが、ターゲットは??

鳥澤：10代です。

丸茂：なぜ?

鳥澤：自分がずっとやりたいテーマで、10代最後に撮りたいと思ったからです。わたしの周りは結構子どものいる友達が多くて、それで幸せだったらいけど、どこかで後悔している感じも受けて。そこが引っ掛



Nichiho Marumo

丸茂 日穂 ● FC TOKYO 専攻顧問
'98年(株)ギャガ・コミュニケーションズ取締役、'04年に代表取締役社長を兼任後、制作会社ユーズフィルムの代表取締役社長を兼任。'10年「ふたたび -Seeing me again-」、'09年「ちゃんねる」、'09年「山形スクリーム」、'04年「他人はスナイパー」、'03年「ロック・カース ROCKERS」など多数作品の制作・エグゼクティブプロデューサーとして活躍。

かったのだ。

丸茂: 50、60代の女性ターゲットとしてならない？

鳥澤: 当初は本当に視野が狭くて、最初は10代のコたちが観て、共感し、考えてくれたらいいな。と思っていました。が、上映会を重ねていろいろな人たちの意見を聞くうちに、だんだん悔しくなってきました。もっと、いろいろな年代の人たちにわかってもらわないと、つまらない(笑)って感じるようになりました。もっと上の年代の方たちにも見てもらいたいです。

丸茂: まあ、今回は勉強なのでいいですが、本来、ショービジネスとして考えた場合、ターゲットというものが非常に重要になってきます。個人的には50代、60代の方にも見てもらえるような作品にできれば、ビジネスとしても売れる映画になるんじゃないかと考えるところもありました。いい映画は結果、老若男女に好かれていくので。

では、最後に映画監督として、映画をビジネスとして捉えていくのか、趣味とするのか、社会貢献とするのか？将来どういう監督になりたいですか？

鳥澤: ビジネスとして、映画を作っていきたいです。一人でも多くの人に観てもらいたい気持ちはあります。3年間でわたしが作れる映画の色味とか強みを確立できるように勉強して、その持ち味と強みを活かして映画を作っていきたいと思います。

丸茂: 主にはどういったジャンルで？

鳥澤: ドラマです。今は同年代が多いのでこのテイストですが、将来は子どもから大人までの俳優さんを使い人のそれぞれの想いや生活を描いていきたいです。

丸茂: いま、考えているテーマありますか？

鳥澤: 同じ世代の学生たちがどういう風に懸命に日常を過ごしている

かを描けたら面白いのかと思っています。

丸茂: 今後も頑張ってください。活躍を期待しています。

鳥澤: ありがとうございました。



CREDIT

STAFF

監督	鳥澤 亜也乃	美術	谷元 沙紀
プロデューサー	新野 未奈		大谷 渉
アシスタントプロデューサー	大原 里帆		一木 勇祐
助監督	本多 遼大	メイク	金子 智世
	荒井 克仁	メイク助手	俵 あずさ
	芦沢 希	衣装	原田 真以子
メイキング	川野 悠輝	衣装助手	尾身 千寛
制作	関根 里奈	スチール	大谷 渉
	野邊 実由紀	編集	中林 春菜
	佃 良太		内藤 裕太
撮影	牧志 結美		小林 茜
撮影助手	井上 夏美	C G	森岡 厘衣
	佐々木 達也		在原 聖乃
照明	庄山 徹	ポスター	岡 優貴
照明助手	河本 隆一	車両	小林 慎太郎
	山本 順平		川口 以党
	佐久間 英之	パンフレット	本多 遼大
録音	高柴 佳奈		野邊 実由紀
録音助手	小林 健人		
	石山 凱彦		

CAST

望月 未波	河嶋 遥伽
潮谷 朔	久保 晶子
ウミ	中村 亮友
満月	水谷 百里
飯島 大河	北見 翔

音楽

主題歌「いのちのおと」

歌	こだまかおる (EART)
ギター	杉山 隆哉
作曲	影山 尚子 (920)
作詞	鳥澤 亜也乃
編曲	nanoline 藤本 藍 / 櫻井 幸太 / 齊藤 州一

挿入歌「Led Light」 SQUARE

「いのちのおとオリジナルサウンドトラック」 nanoline

製作

東京フィルムセンター映画・俳優専門学校

「いのちのおと」

太陽が眩しくて 手をかざしてみた
あの日の幼い影は 夢の中 波にさらわれる

過ぎてゆく日常が 過去に変わってく
これからは ただひとりで 生きてゆけると信じてた

寄せては返してゆく 出会いと別れの中で
放つ声は儚くとも 耳をすませば聞こえてくる

会いたくて あなたの元へ 今はまだ道の途中
忘れないで あなたのために 響くこの鼓動

引いては満ちてゆく 涙と笑顔のあとで
放つ声は儚くとも 耳をすませば聞こえてくる

会いたくて あなたの元へ 今はまだ道の途中
思い出して 誰かのために 刻むこの鼓動



TOXICO
PRODUCTION